学校番号	3030

令和８年度　地理歴史科

教科	地理歴史	科目	世界史探究	単位数	２単位	年次	２年次 （文理科・通年）
使用教科書	「新詳世界史探究」（帝国書院）						
副教材等	「グローバルワイド 最新世界史図表（新課程）」（第一学習社編集部）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

世界史を勉強するにあたって大切なことは、常に歴史的事象や現代に起こっている出来事について「なぜ」という視点をもって思考していくことです。そして、歴史から学んだことを生かして、世界の国の諸事情をふまえ、現在の日本のあり方を考えていきましょう。授業に積極的に参加し、個々の事象だけでなく、俯瞰的な視点をもって主体的・多角的に思考する機会を生かしてほしいと思います。また、考査前の知識の整理をきちんと行って、歴史という時間軸を大きな枠組で理解してほしいと思います。

2　学習の到達目標

【知識及び技能】
諸地域における文明や国家形成の過程やそれらの関係性についての基本的な知識を身につける。
【思考力、判断力、表現力等】
現代の諸課題について、世界の歴史と結びつけ歴史的観点から考察する力を培う。
【学びに向かう力、人間性等】
世界の歴史を地理的条件や日本の歴史と関連づけながら理解し、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	諸地域において各文明や国家が形成された過程について、それぞれの文明間・国家間の関係性とともに理解する。その際、様々な歴史的資料を用いて、多角的な視点から適切かつ効果的に調査を行い、文章にまとめている。	各文明の発生およびその発展に関わる事象の意味や意義、特色や相互の関係を、時代や地域、文化などに着目して、多面的・多角的に考察し、現代社会の課題解決に向けて構想する。さらにその考察、構想を効果的に説明したり、それらを基に議論したりしている。	各文明や国家において形成された政治的・経済的・文化的な世界の諸事情について、国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に入れ、そこで見られる課題を主体的に追究、解決しようとしている。
上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。			

4　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
前期	諸地域の歴史的特質の形成	・古代文明の歴史的特質 ・東アジアと中央ユーラシアの歴史的特質 ・南アジアと東南アジアの歴史的特質	a:諸地域の文明が形成される過程を概観し、世界史の中で各地域が担った役割を理解する。また、中華文明に関しては、日本や朝鮮を含む東アジア世界の形成につながることを理解する。 b:各地で古代帝国が繁栄する過程で本格化するユーラシアの東西を結ぶ交流について多面的・多角的に考察し、表現する。 c:諸地域の文明が現代においてどのような状況にあるかについて、現代社会の諸課題も含めて積極的に様々な資料を活用し、考察を深めようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト	・提出ノート ・ワークシート ・レポート
		・西アジアと地中海周辺の歴史的特質	a:オリエントと地中海世界を中心にさまざまな民族によって発展してゆく文明を理解する。 b:オリエントと地中海世界との融合やローマと他地域との交易など、それぞれの地域世界の間を取り持つ陸や海のネットワークについて多面的・多角的に考察し、表現する。 c:オリエントや地中海世界が今後の世界史に及ぼした影響、すなわち国家システムや文字や宗教などについて、積極的に様々な資料を活用し、考察を深めようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト	・提出ノート ・ワークシート ・レポート

後期	諸地域の交流・再編	・東アジア諸地域の成長と自立	a:隋唐から宋への政治的・経済的・文化的変革および周辺の東アジア諸国の政治権力の交代について理解する。 b:隋唐と宋の統治体制および社会・文化の特色を比較し、東アジア文化圏の統合力の変化という視点から考察して表現する。 c:隋唐から宋への変化およびそれぞれの王朝と周辺諸国との関係性について、積極的に様々な資料を活用し、考察を深めようとしている。	・定期考査 ・小テスト	・定期考査 ・小テスト	・提出ノート ・ワークシート ・レポート

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度